

久留米市団塊世代の  
実態・意識調査結果報告  
(抜粋)

＝平成23年度第5回高齢者福祉計画及び介護保険事業計画推進協議会資料＝

平成23年10月28日

健康福祉部長寿支援課



# 目 次

I. 調査概要	P. 1
II. 調査結果	P. 2
1. 世帯状況について	P. 2
2. 日常生活について	P. 4
3. 健康づくりや介護予防、家族の介護について	P. 7
4. 就業について	P. 11
5. 地域活動・社会貢献について	P. 13
6. 居住ニーズについて	P. 19
7. 行政に期待する施策について	P. 21
III. 調査結果から見えるもの（特徴的なもの）	P. 23
IV. 5期計画に向けた課題の整理	P. 24

# I. 調査概要

## 1. 調査の目的

新たに高齢期にさしかかる団塊の世代（昭和 22 年～24 年生まれ）の日常生活や健康づくり・介護予防の状況、地域活動や社会貢献への意識等を把握し、「久留米市第 5 期高齢者福祉計画及び介護保険事業計画」策定の基礎資料とするとともに、今後の高齢者福祉施策に活かすため。

## 2. 調査の対象

久留米市在住の昭和 22 年～24 年生まれの方の中から無作為に抽出した 1,032 名。

## 3. 調査の方法

郵送による配付・回収

## 4. 調査の期間

平成 23 年 8 月 5 日（金）から平成 23 年 8 月 19 日（金）まで。

## 5. 回収結果

発送数	有効回収数	有効回収率
1,032 通	505 通	48.9%

### \* 比較を行った高齢者実態調査について

下記の調査対象者の中で、一般高齢者との比較を行った。

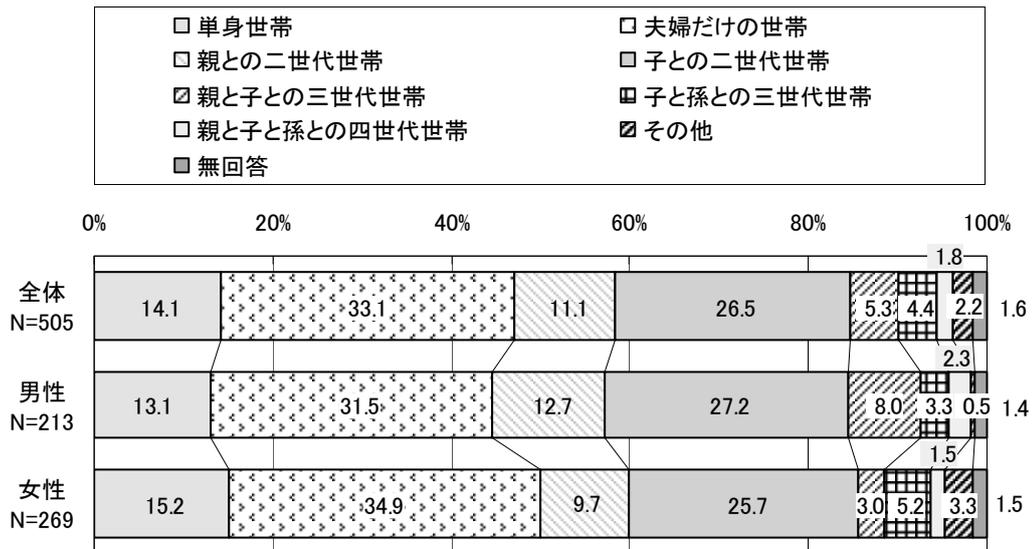
- (1) 調査対象者  
平成 22 年 12 月 22 日現在、市内の高齢者（65 歳以上）から無作為抽出（5,791 人）
  - ①一般高齢者：要支援認定、要介護認定を受けていない高齢者（3,485 人）
  - ②要支援者：在宅で要支援認定を受けている高齢者（804 人）
  - ③要介護者：在宅で要介護認定を受けている高齢者（1,502 人）
- (2) 調査方法 郵送配付、郵送回収（無記名）
- (3) 調査期間 平成 23 年 1 月 18 日 ～ 2 月 3 日
- (4) 回収状況

調査区分	対象者数(人)	有効回収数(人)	回収率(%)
①一般高齢者	3,485	2,198	63.1
②要支援者	804	540	67.2
③要介護者	1,502	725	48.3
合計	5,791	3,463	59.8

## Ⅱ. 調査結果

### 1. 世帯状況について

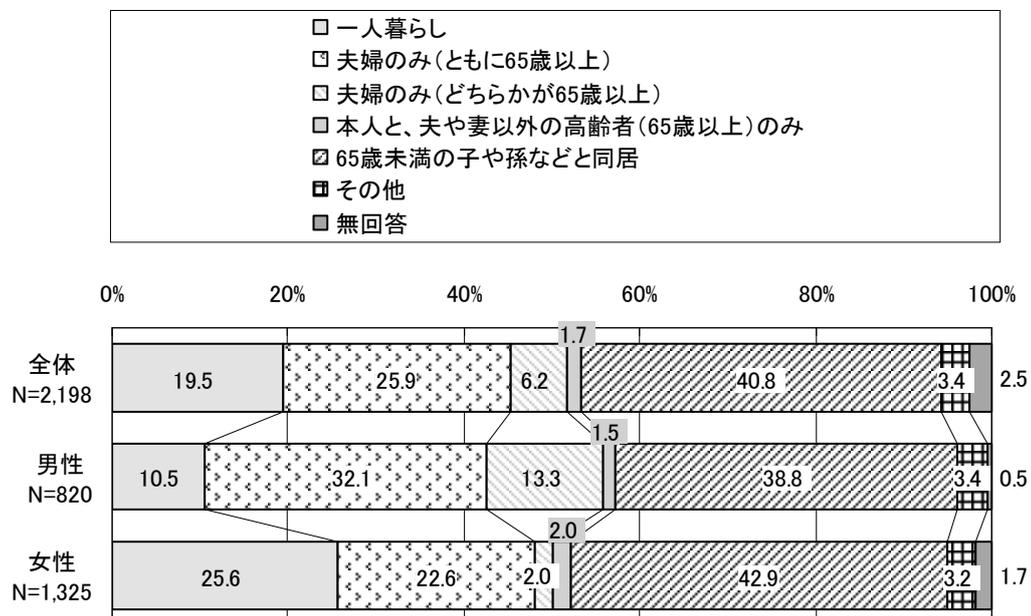
#### ①世帯構成



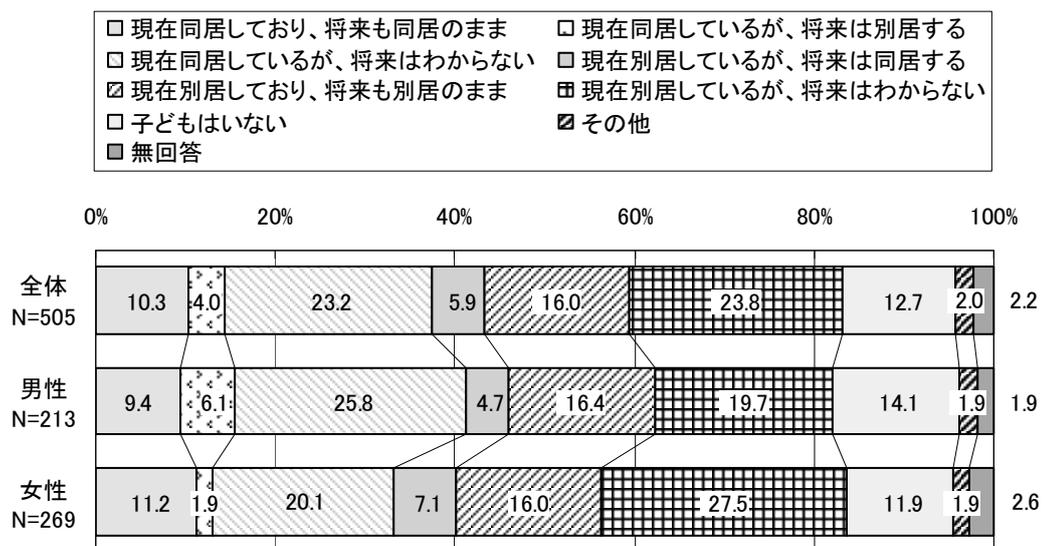
回答者の世帯構成については、「夫婦だけの世帯」が最も多く、以下、「子との二世帯世帯」、「単身世帯」と続いています。

高齢者の調査結果では、男性に比べ女性の「一人暮らし」の割合が高くなっていますが、団塊の世代では男女差はあまり見られません。

《参考：高齢者実態調査データ》



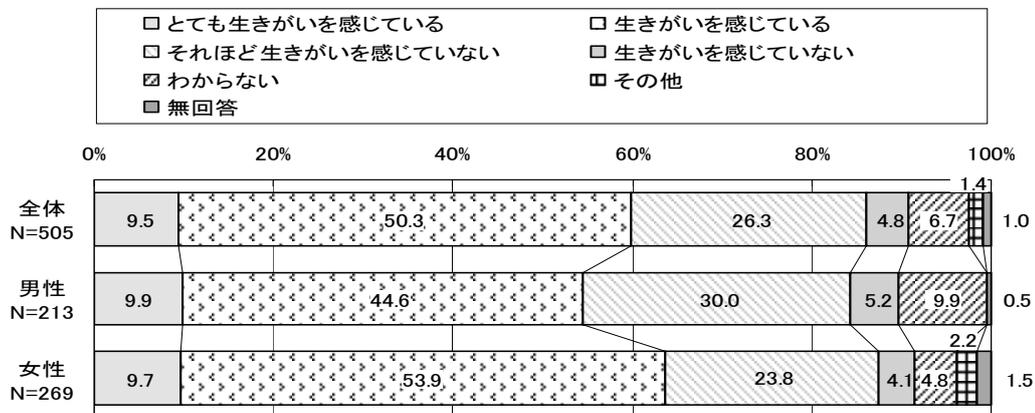
## ②子どもとの同居予定



現在は子どもと同居している人よりも別居している人の割合の方がやや高くなっていますが、いずれも「将来はわからない」という回答が多く、現在同居している人も含め将来「同居」と回答した人の割合は「別居」と回答した人の割合より低くなっています。

## 2. 日常生活について

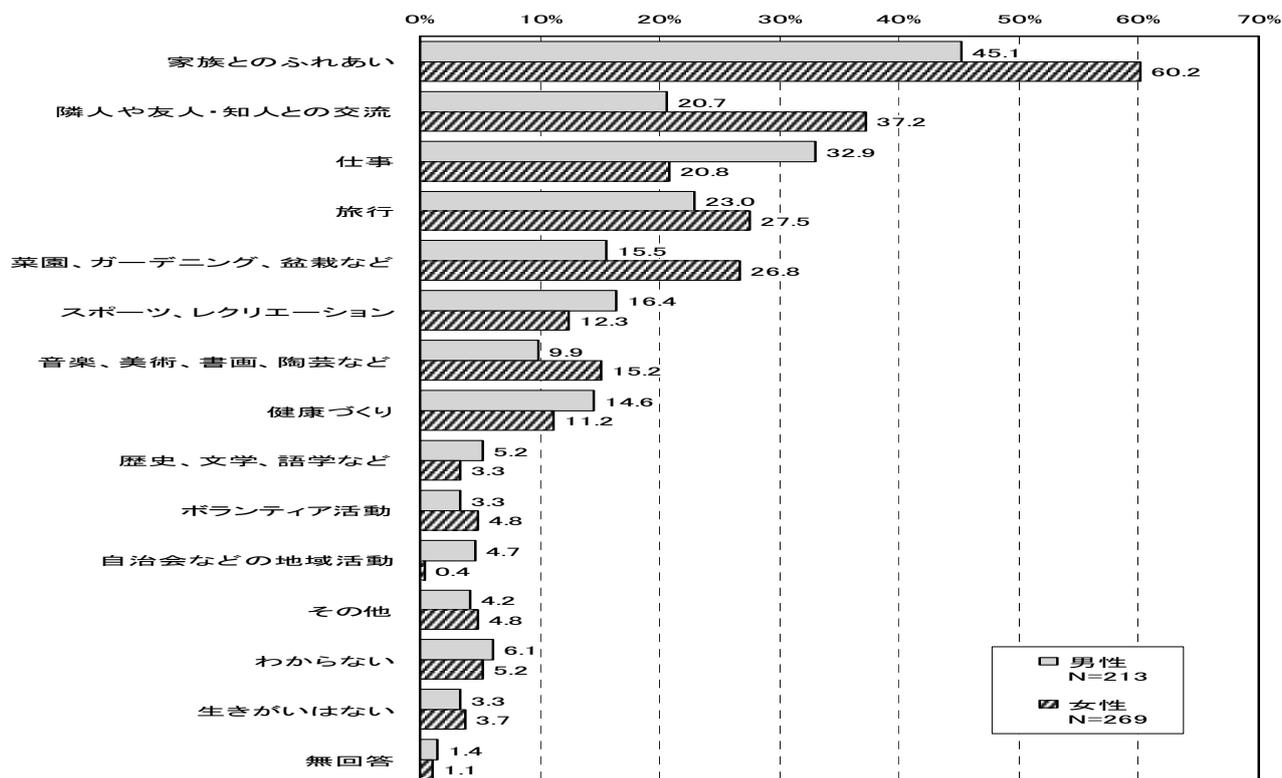
### ①ふだんの暮らしに生きがいを感じているか



ふだんの暮らしに「とても生きがいを感じている」または「生きがいを感じている」と回答した人の割合は、「それほど生きがいを感じていない」または「生きがいを感じていない」と回答した人の割合を上回っています。

男女別に見ると、女性に比べ男性の方が「(それほど) 生きがいを感じていない」という回答割合が高くなっています。

### ②生きがいは何か



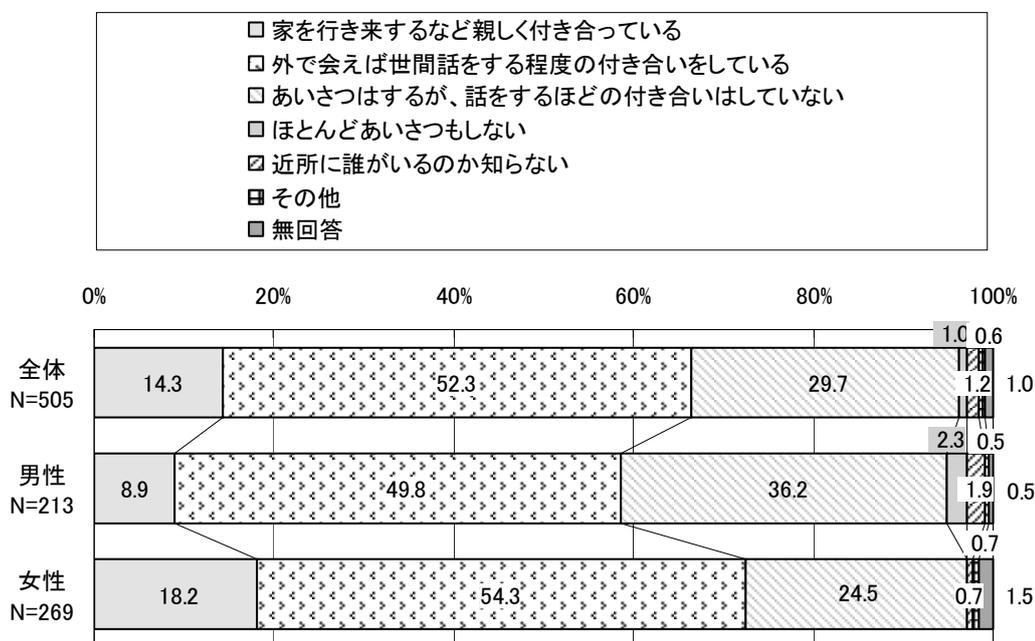
生きがいは何かという問いについては、「家族とのふれあい」という回答割合が最も高く、以下、「隣人や友人・知人との交流」、「仕事」、「旅行」、「菜園、ガーデニング、盆栽など」と続いています。

### ③地域活動・社会貢献活動の参加状況と生きがいの程度

%		地域活動や社会貢献に参加していますか		
		参加している	参加していない	無回答
ふだんの暮らしに 生きがいをかんじて いますか。	とても生きがいを感じている	54.2	33.3	12.5
	生きがいを感じている	32.7	55.5	11.8
	それほど生きがいを感じていない	20.3	71.4	8.3
	生きがいを感じていない	25.0	70.8	4.2
	わからない	11.8	85.3	2.9
	その他	28.6	71.4	—

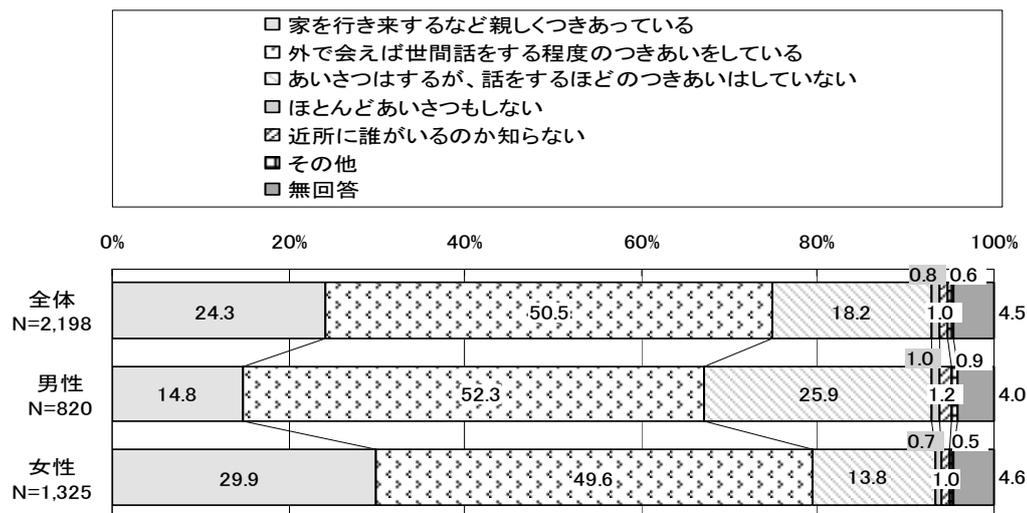
生きがいと地域活動・社会参加活動の参加状況のクロス集計結果では、活動に参加している方が参加していない方より生きがいを感じている割合も高くなっています。

### ④近所付き合いの程度

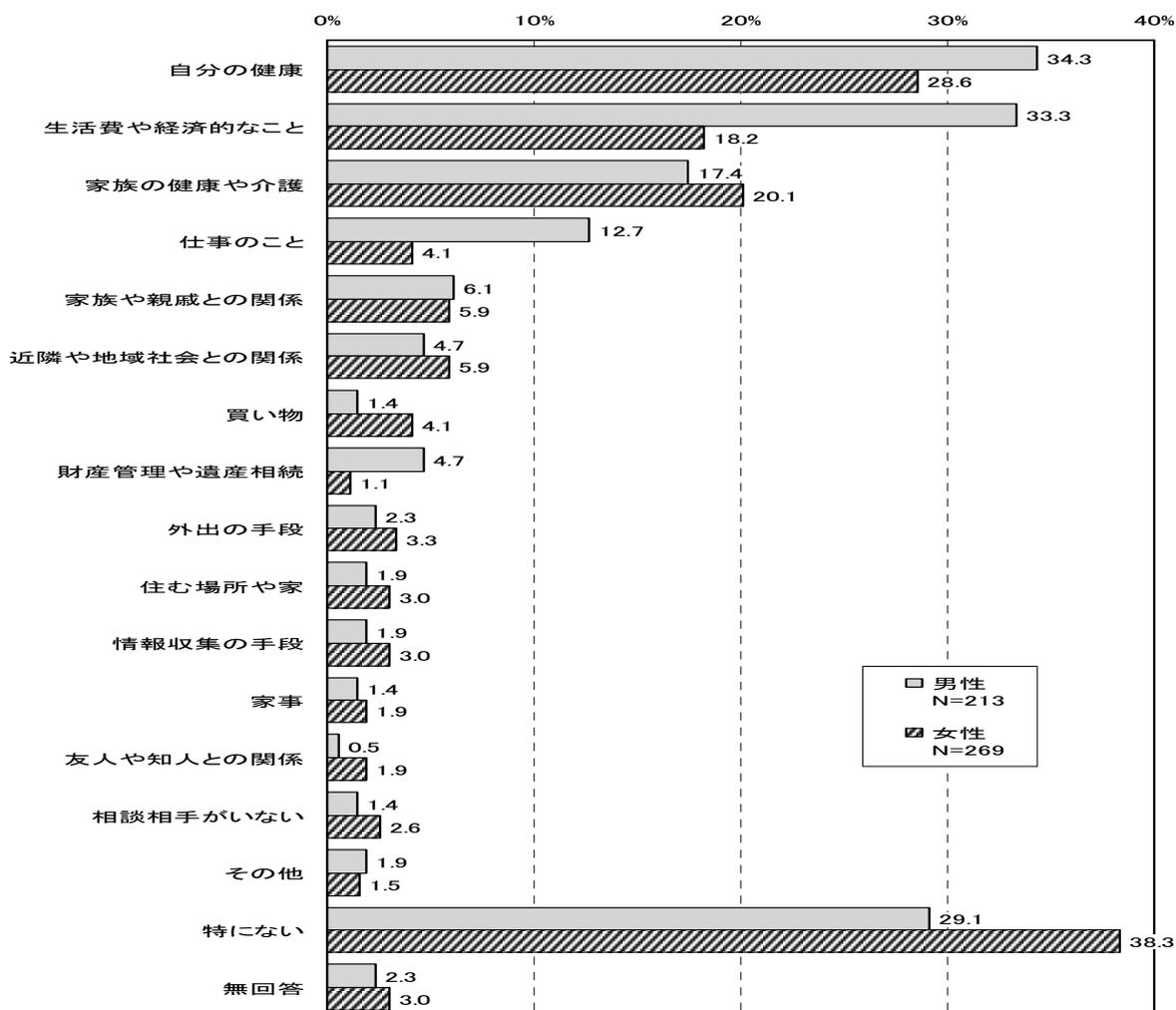


近所付き合いの程度については、「家を行き来するなど親しく付き合っている」、「外で会えば世間話をする程度の付き合いをしている」という回答割合が最も高くなっています。

《参考：高齢者実態調査データ》



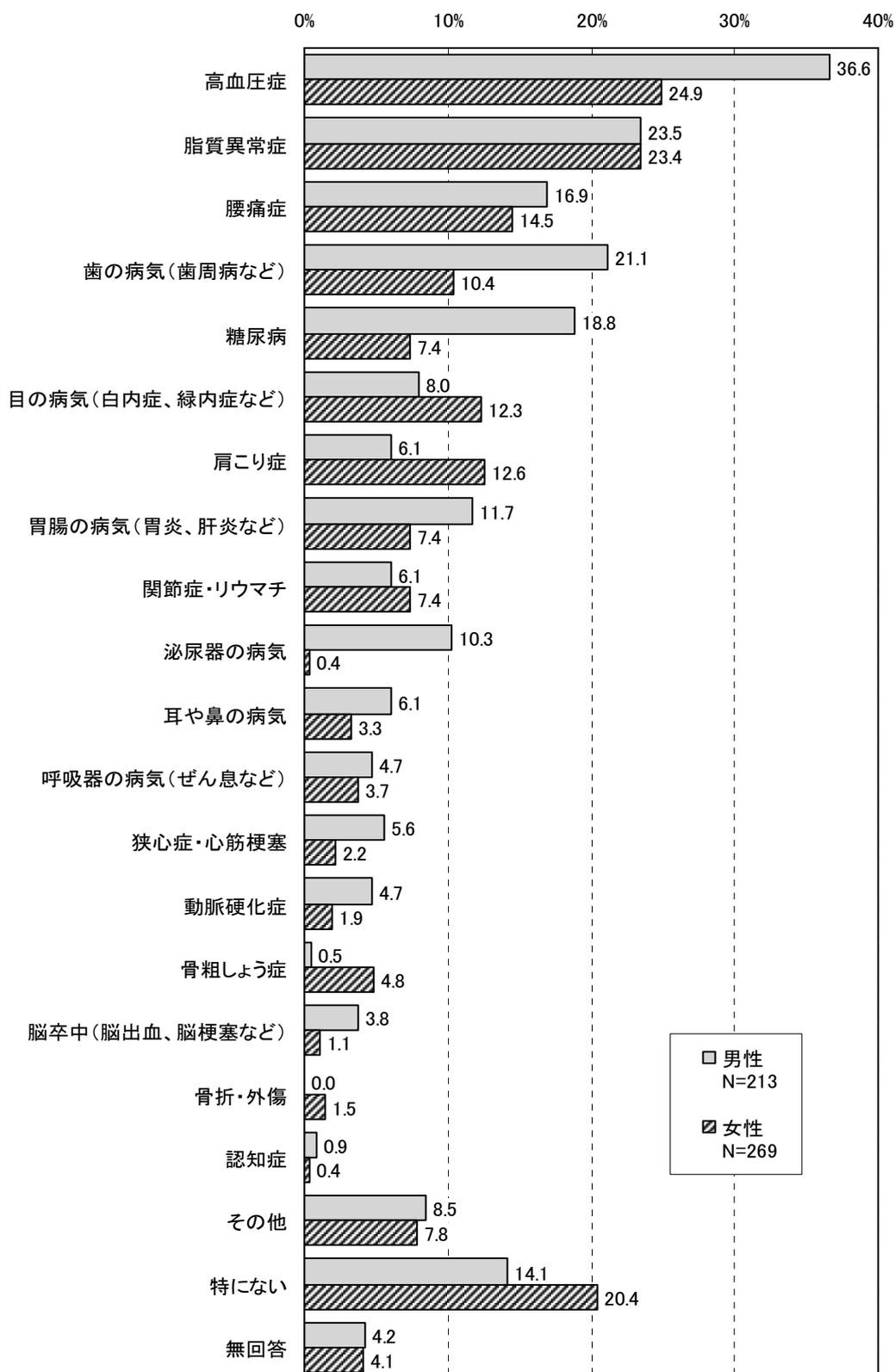
### ⑤日常生活での困りごと



困っていることの内容としてもっと多かったのは「自分の健康」で、以下、「生活費や経済的なこと」、「家族の健康や介護」と続いています。

### 3. 健康づくりや介護予防、家族の介護について

#### ①現在かかっている病気

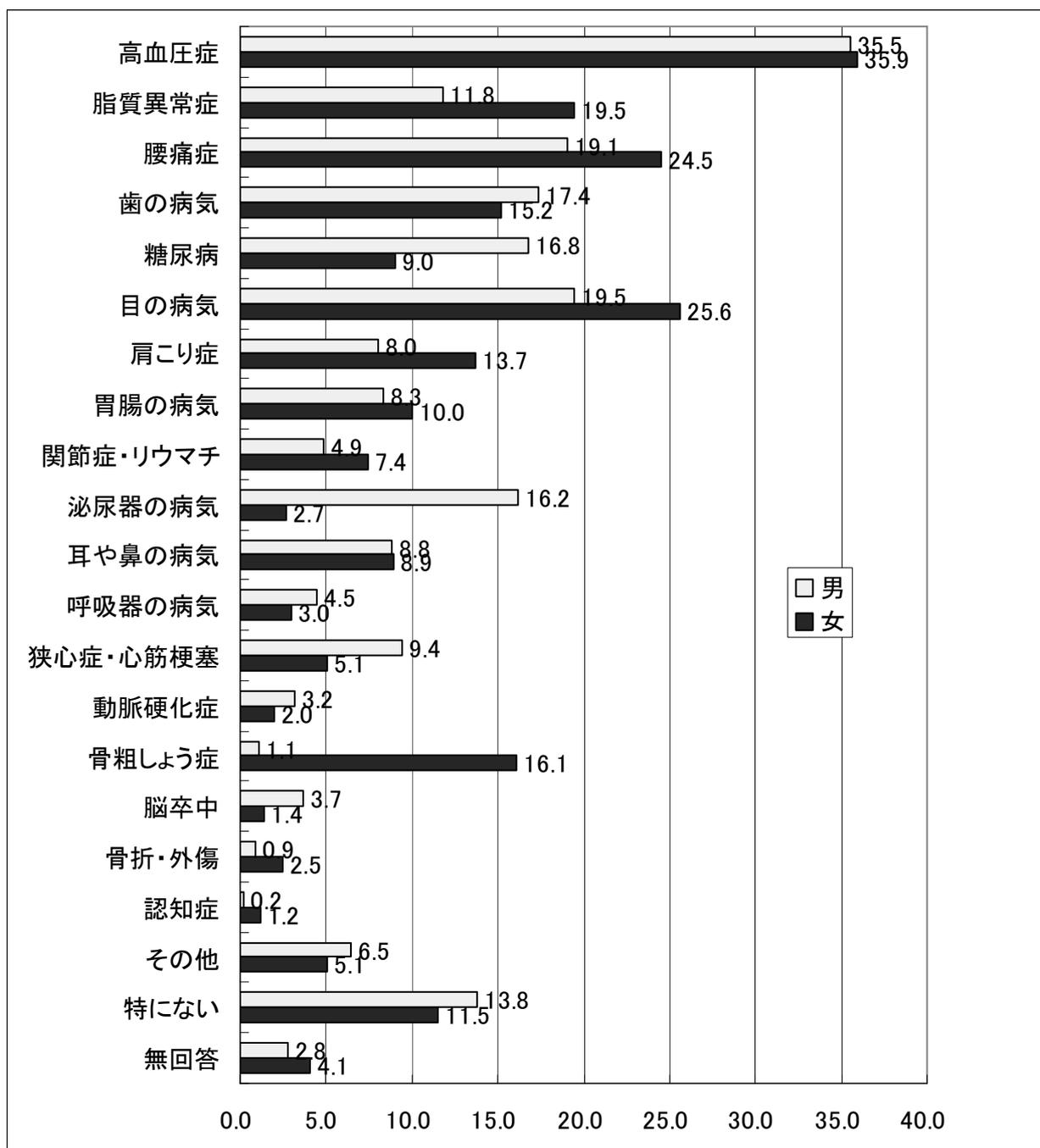


現在かかっている病気については、「高血圧症」の回答割合が最も高く、以下、「脂質異常症」(23.6%)、「腰痛症」、「歯の病気（歯周病など）」、「糖尿病」と続いています。

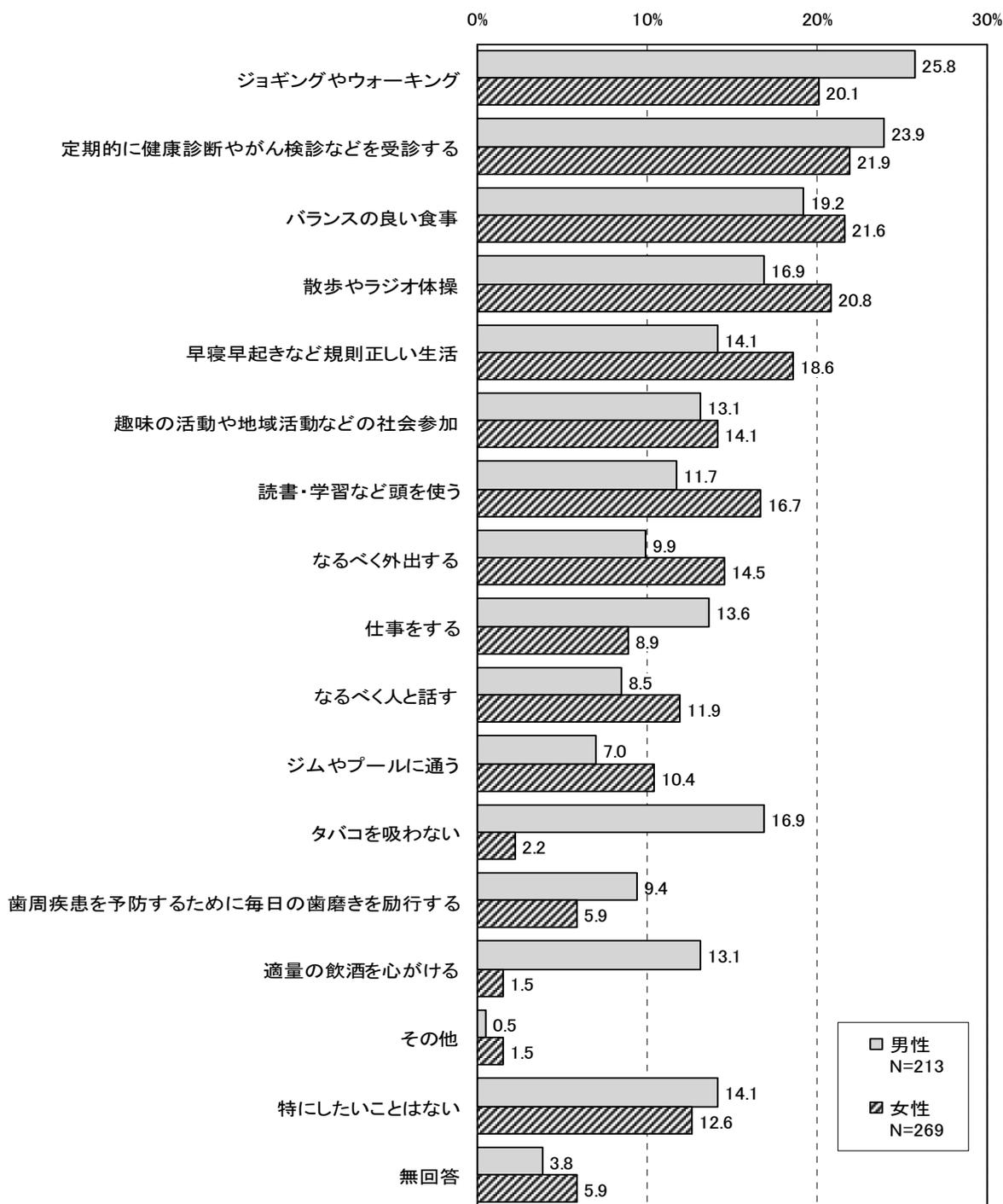
男女別に見ると、「高血圧症」、「歯の病気」、「糖尿病」、「泌尿器の病気」については男性の回答割合が、「骨粗しょう症」については女性の回答割合が高くなっています。

高齢者調査結果と併せてみると、高齢期になると、「目の病気」、「骨粗しょう症」、「泌尿器の病気」の発症割合が高くなることがうかがわれます。

《参考：高齢者実態調査データ》

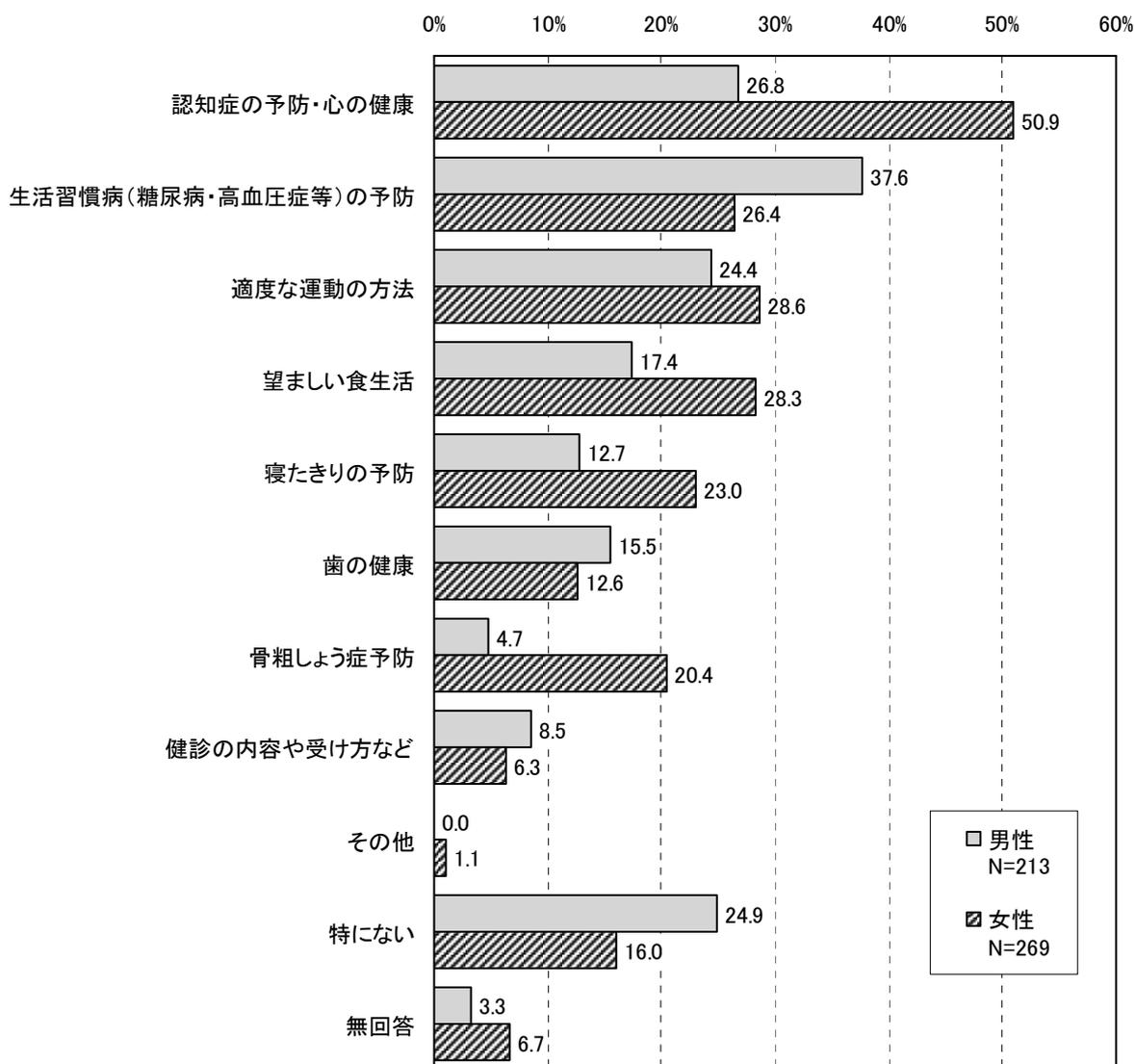


## ②健康づくりや介護予防のために今後新たにしようと思うこと



健康づくりや介護予防のために今後新たにしようと思うこととしては、「ジョギングやウォーキング」や「定期的に健康診断やがん検診などを受診する」、「バランスの良い食事」、「散歩やラジオ体操」が上位にあがっています。

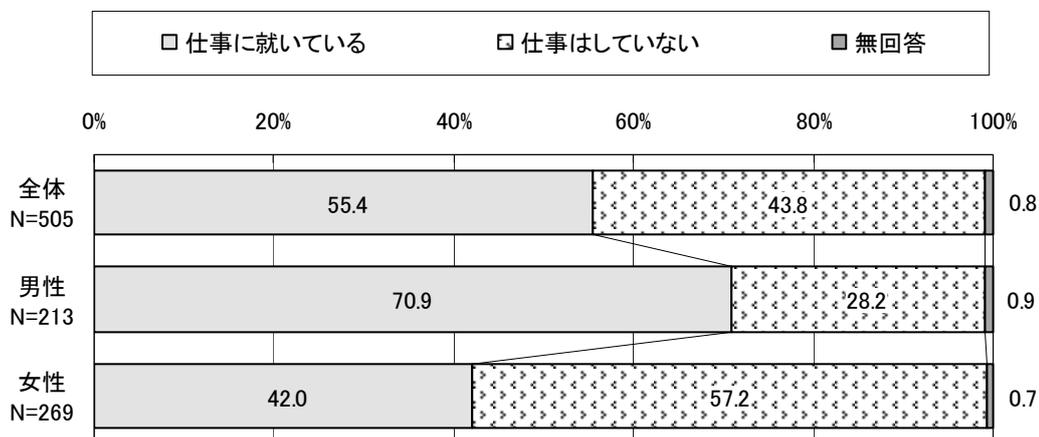
### ③健康づくりのために知りたいこと



健康づくりのために知りたいこととしては、「認知症の予防・心の健康」の回答割合が最も高く、以下、「生活習慣病（糖尿病・高血圧症等）の予防」、「適度な運動の方法」、「望ましい食生活」と続いています。

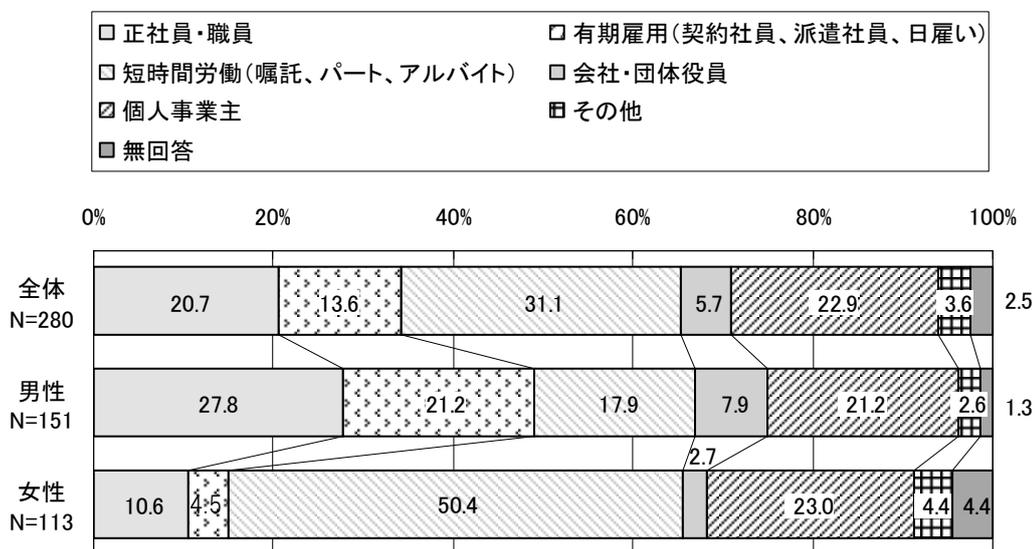
## 4. 就業について

### ①就業状況



現在、「仕事に就いている」と回答した人の割合は、女性より男性が高くなっています。

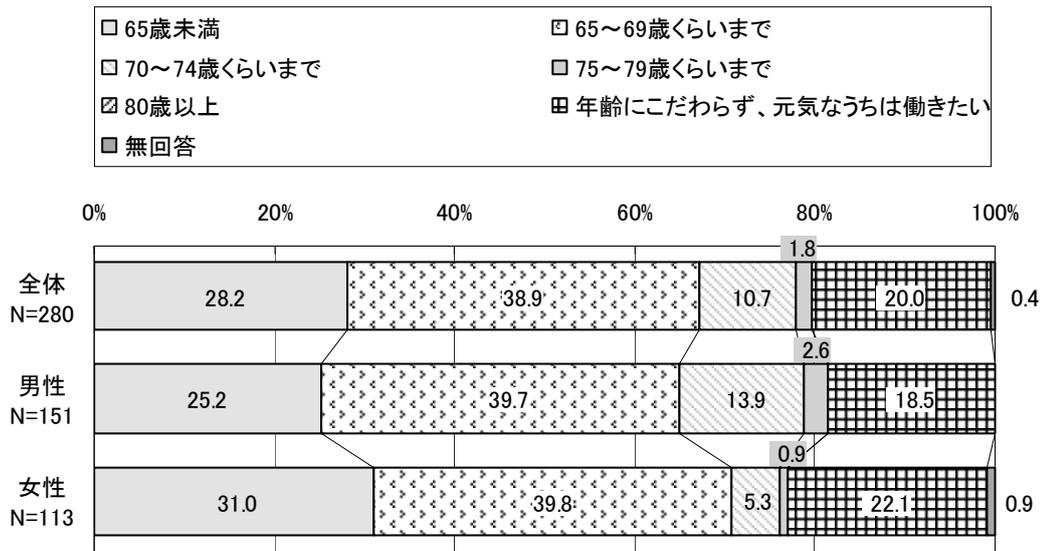
### ②就業形態



「仕事に就いている」と回答した人に職業形態を尋ねると、男性では「正社員・職員」の割合が最も高く、「有期雇用（契約社員、派遣社員、日雇い）」と「個人事業主」がともに続いています。

いっぽう、女性では、「短時間雇用（嘱託、パート、アルバイト）」がほぼ半数を占めています。

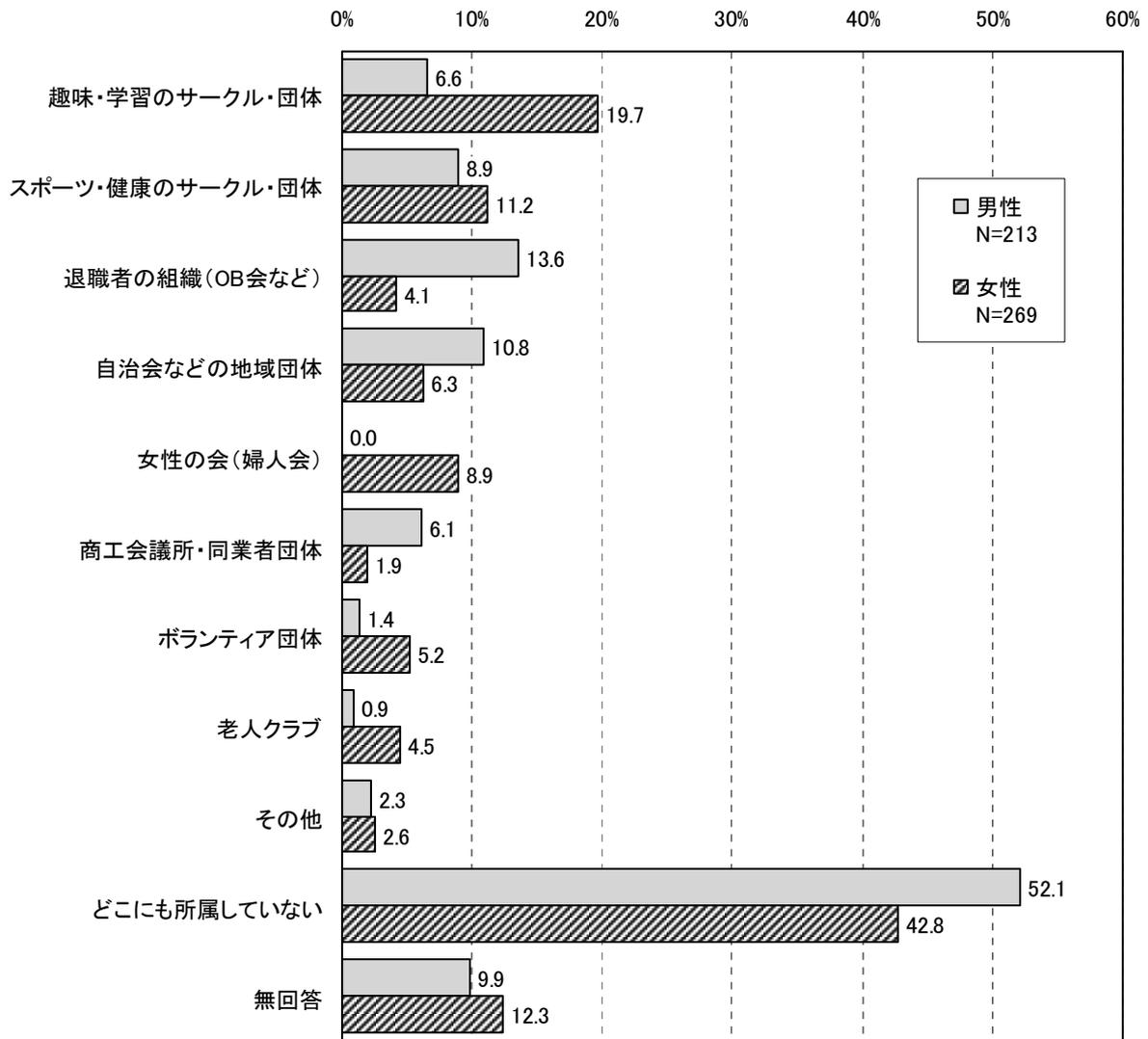
### ③何歳くらいまで仕事をしたいか



何歳くらいまで仕事をしたいかという問いに対しては、男女ともに「65～69歳」という回答割合が最も高くなっています。

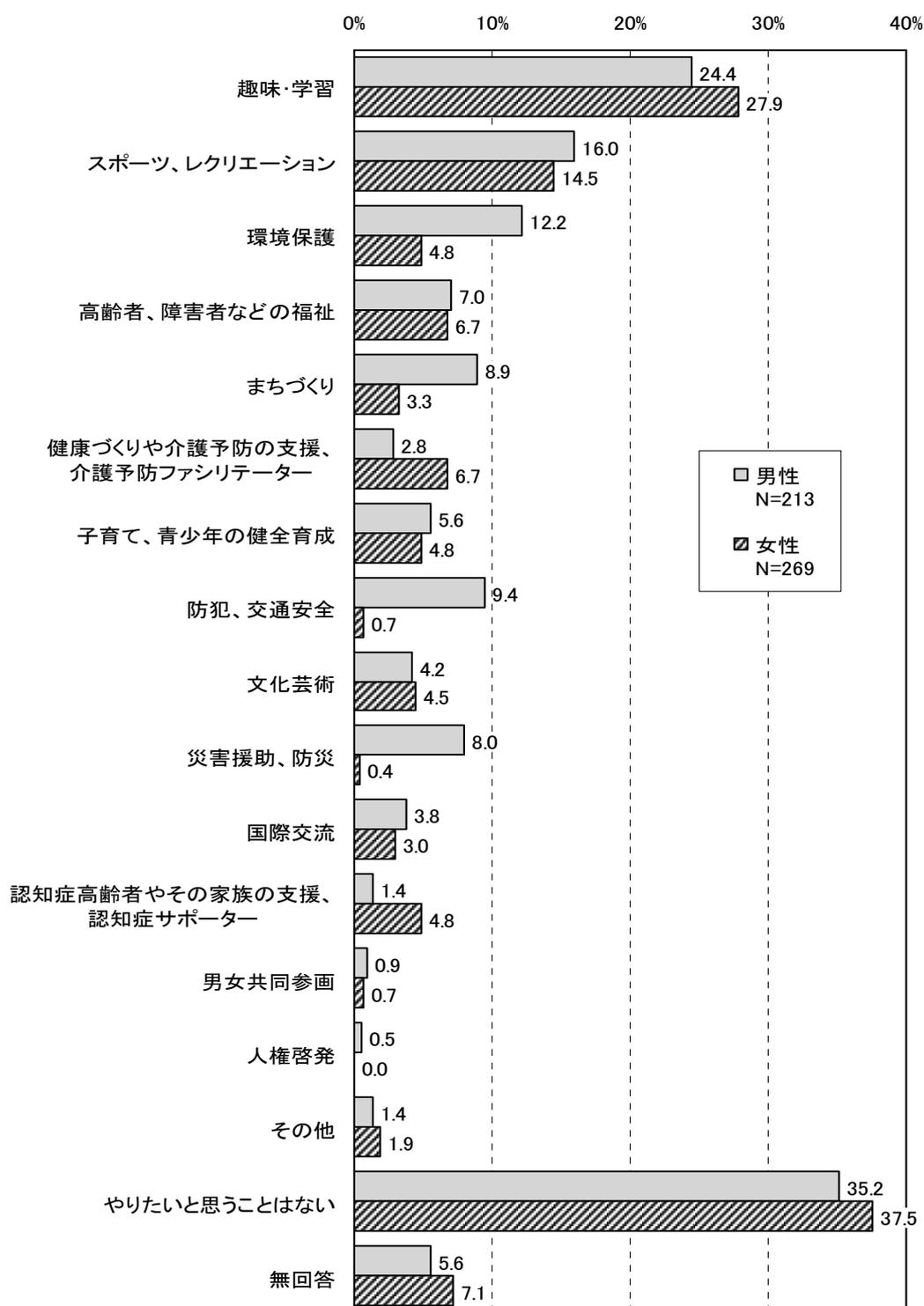
## 5. 地域活動・社会貢献について

### ①勤務先以外に所属している団体や組織



勤務先以外に所属している団体や組織があるかという問いに対しては、全体の半数近くが「どこにも所属していない」と回答しています。

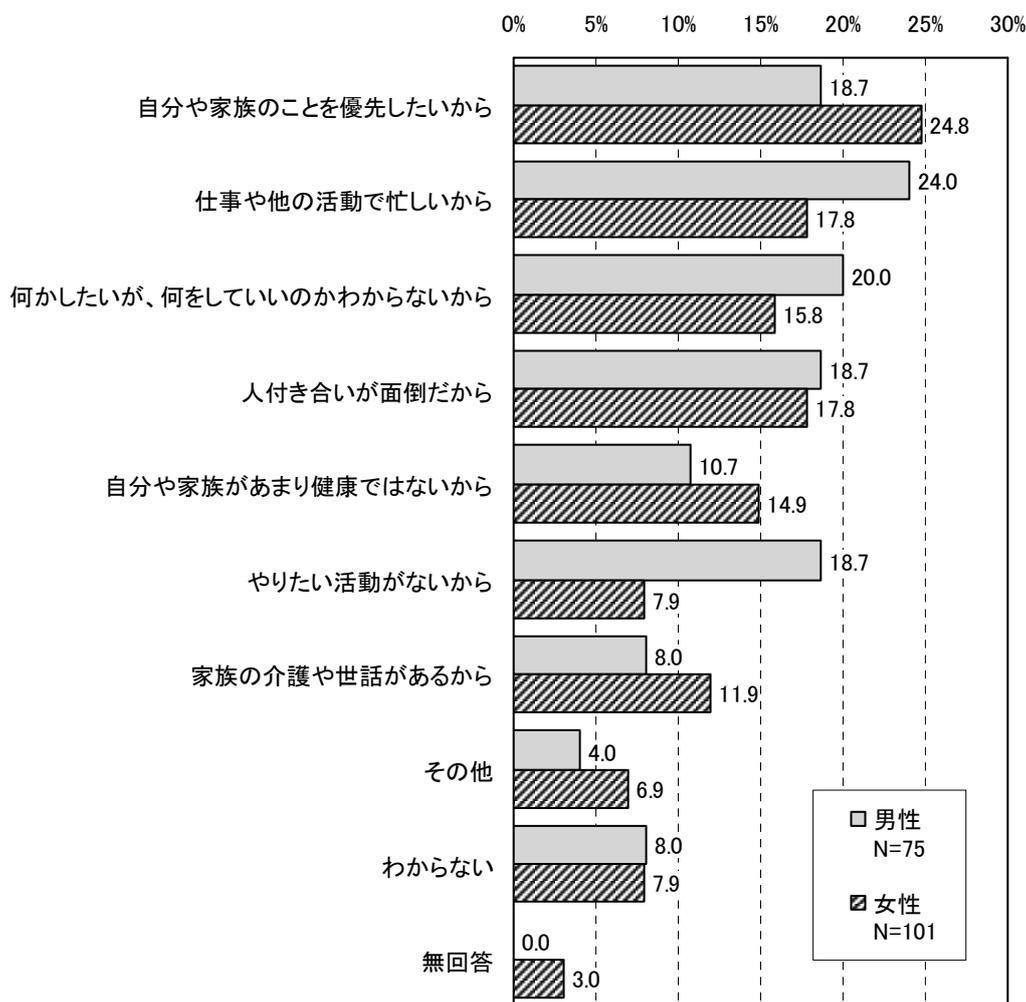
## ②地域活動や社会貢献活動として今後新たにやりたいと思うこと



地域活動や社会貢献活動として今後新たにやりたいと思うことがあるかという問いに対しては、「やりたいと思うことはない」が最も高くなっています。

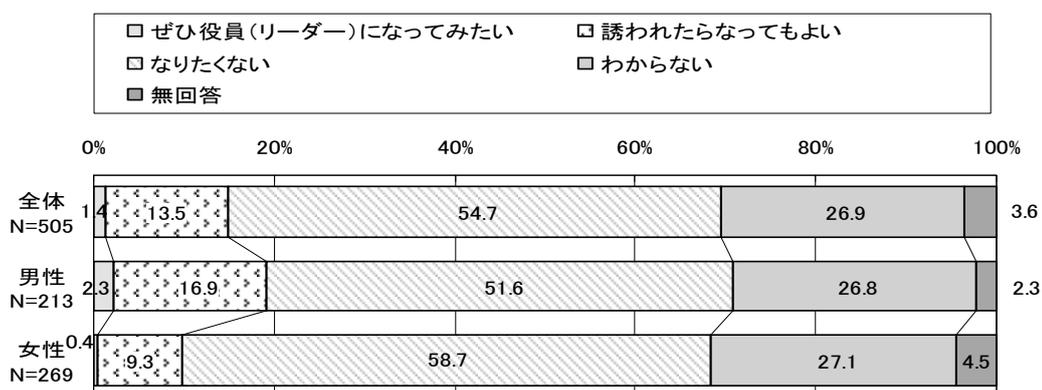
やりたいと思う活動については、男女ともに「趣味・学習」の回答割合が最も高くなっています。

### ③ やりたいと思うことはない理由



「やりたいと思うことはない」と回答した人にその理由を尋ねたところ、「自分や家族のことを優先したいから」という回答割合が最も高く、以下、「仕事や他の活動で忙しいから」、「何かしたいが、何をしたいのかわからないから」、「人付き合いが面倒だから」と続いています。

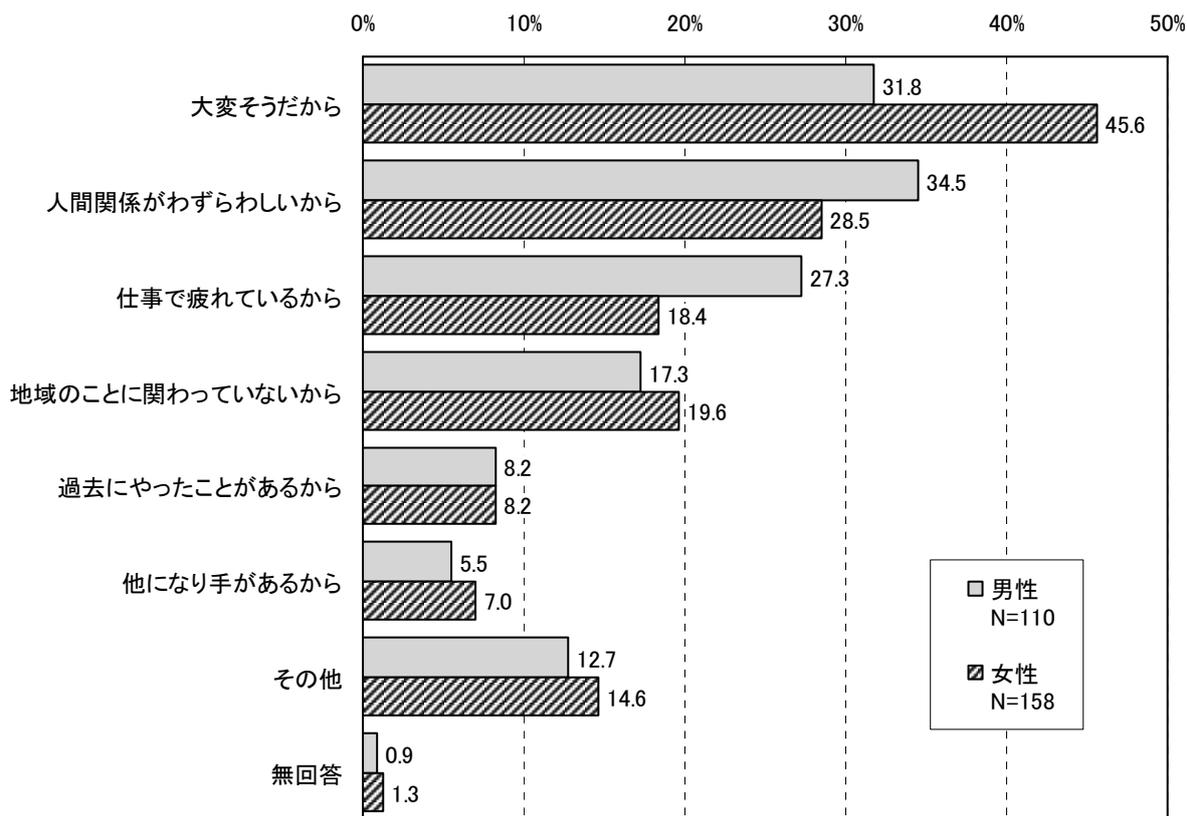
### ④ 地域活動における役員（リーダー等）への就任



今後、役員（リーダー等）などの立場で地域活動に関わりたいと思うかという問いに対しては、全体の半数以上が「なりたくない」と回答しており、「ぜひ役員（リーダー）になってみたい」と回答した人の割合は1.4%にとどまっています。

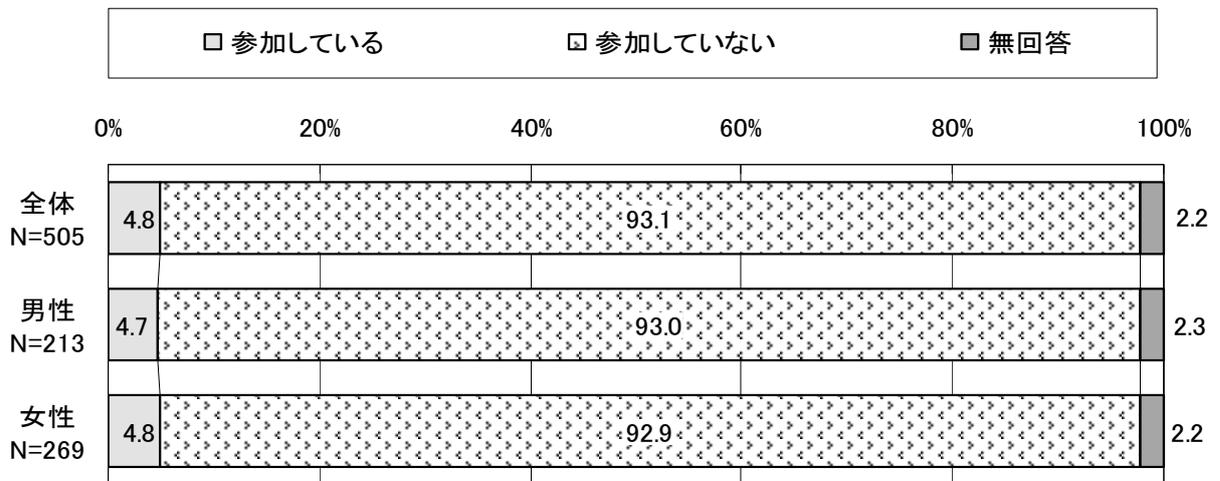
男女別に見ると、「ぜひ役員（リーダー）になってみたい」または「誘われたらなくてもよい」と回答した人の割合は、女性より男性の方が高い結果となっています。

### ⑤なりたくない理由



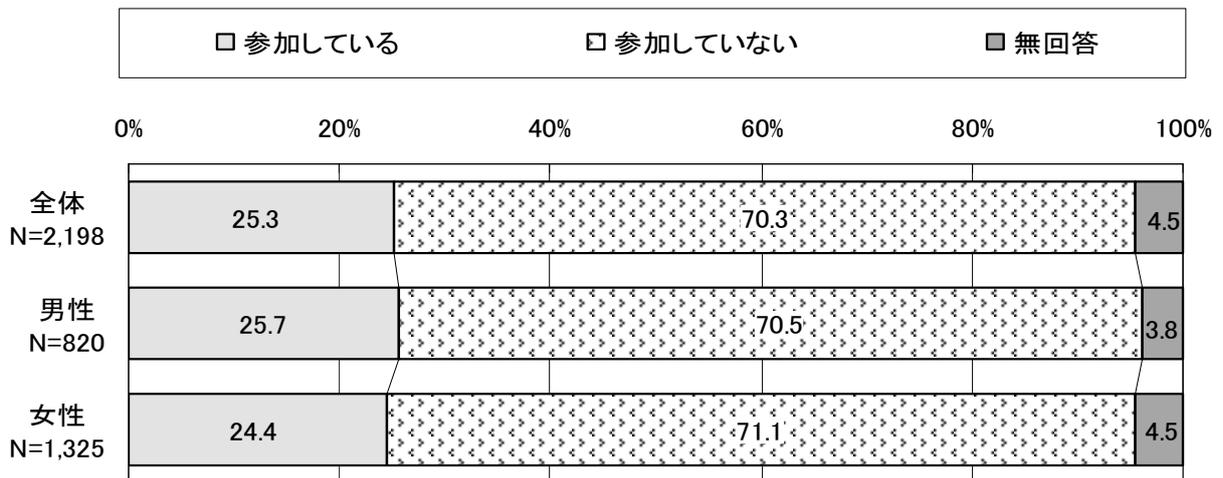
リーダー等に「なりたくない」と回答した人に対してその理由を尋ねたところ、「大変そうだから」という回答割合が最も高く、以下、「人間関係がわずらわしいから」「仕事で疲れているから」「地域のことに関わっていないから」と続いています。

## ⑥老人クラブ活動への参加状況

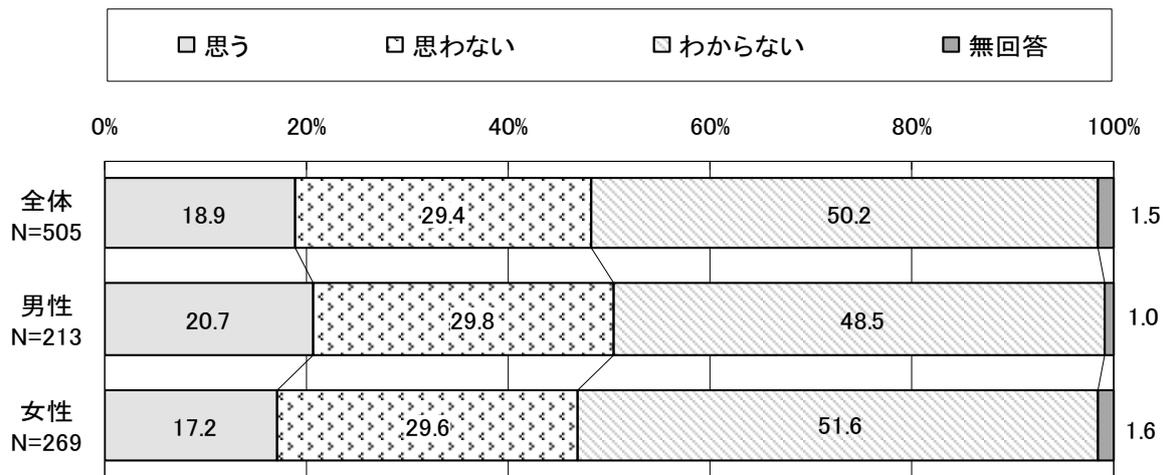


老人クラブ活動に「参加している」と回答した人の割合は高齢者の調査結果と比べると、かなり低い割合となっています。

《参考：高齢者実態調査データ》

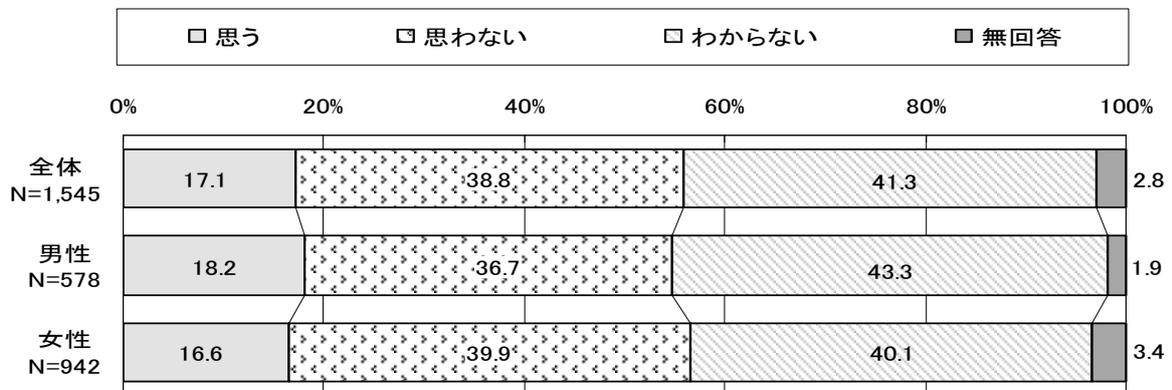


## ⑦老人クラブ活動への参加意向



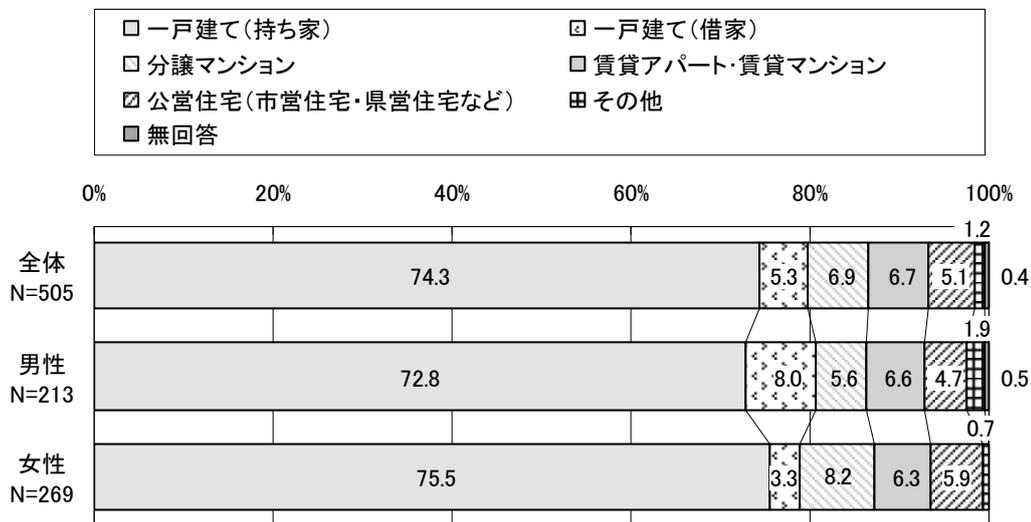
将来の参加意向を尋ねたところ高齢者の調査データに比べると、男女ともに「思わない」の回答割合が低くなっており、「わからない」という回答割合が高くなっております。

《参考：高齢者実態調査データ》



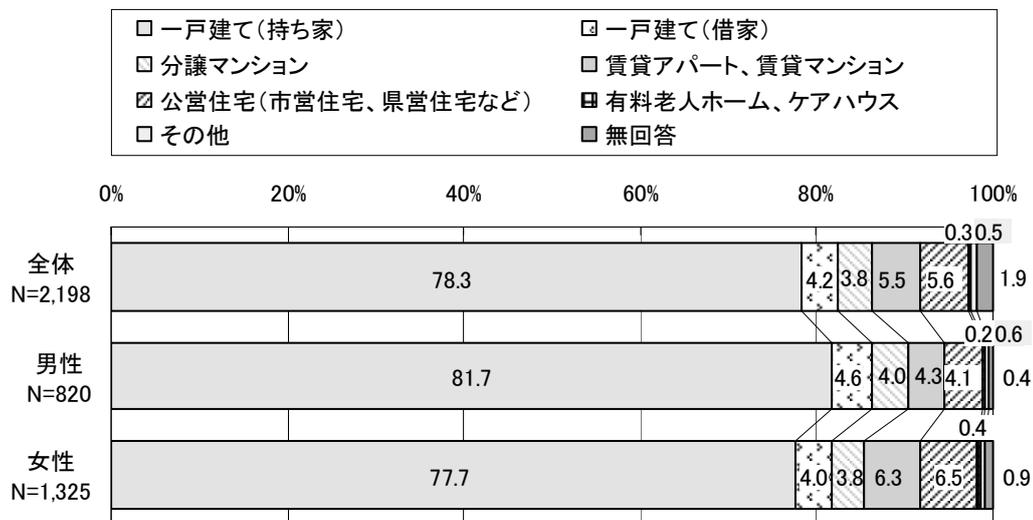
## 6. 居住ニーズについて

### ①住居の状況

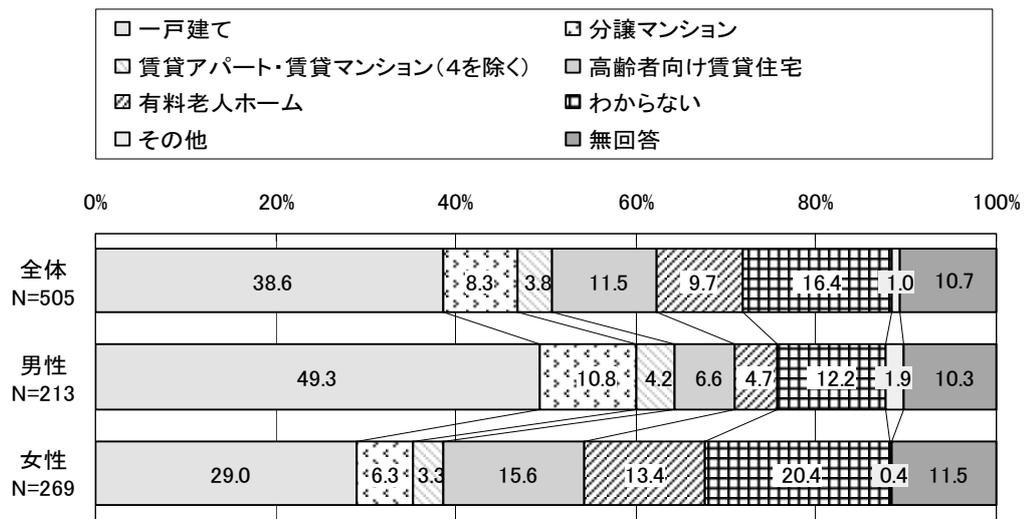


回答者の住居については、「一戸建て（持ち家）」の割合が最も高くなっていますが、高齢者の調査結果に比べると、男性についてはその割合が少し低くなっています。

《参考：高齢者実態調査データ》



## ②仮に住み替えるとした場合の希望する住宅タイプ

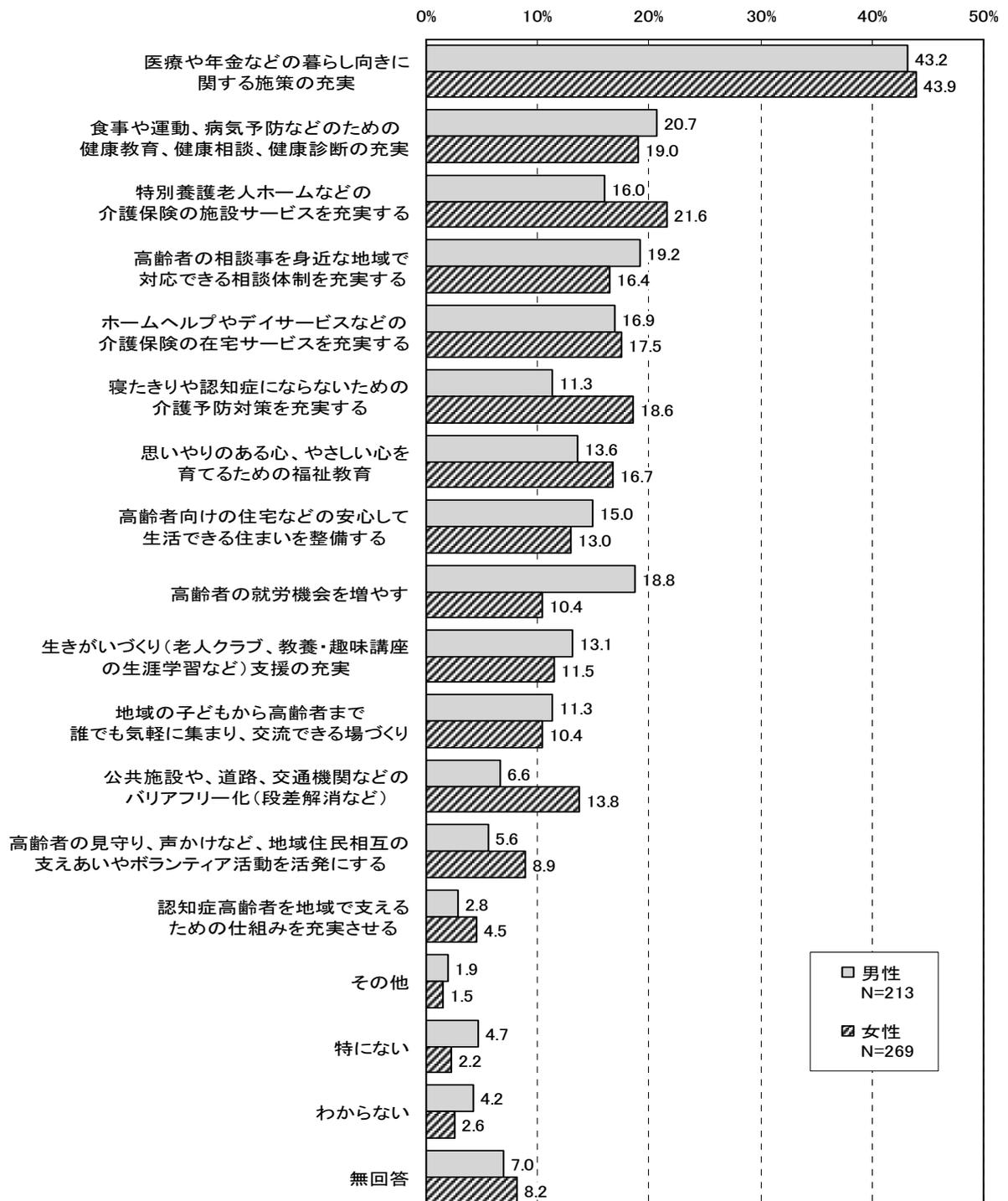


今後、仮に住み替えるとした場合に希望する住宅タイプについては、「一戸建て」という回答割合が最も高くなっています。

しかし、男女別に見ると、男性に対し女性は低くなっており、その分男性に比べ「高齢者向け賃貸住宅」や「有料老人ホーム」を希望する割合が高くなっています。

## 7. 行政に期待する施策について

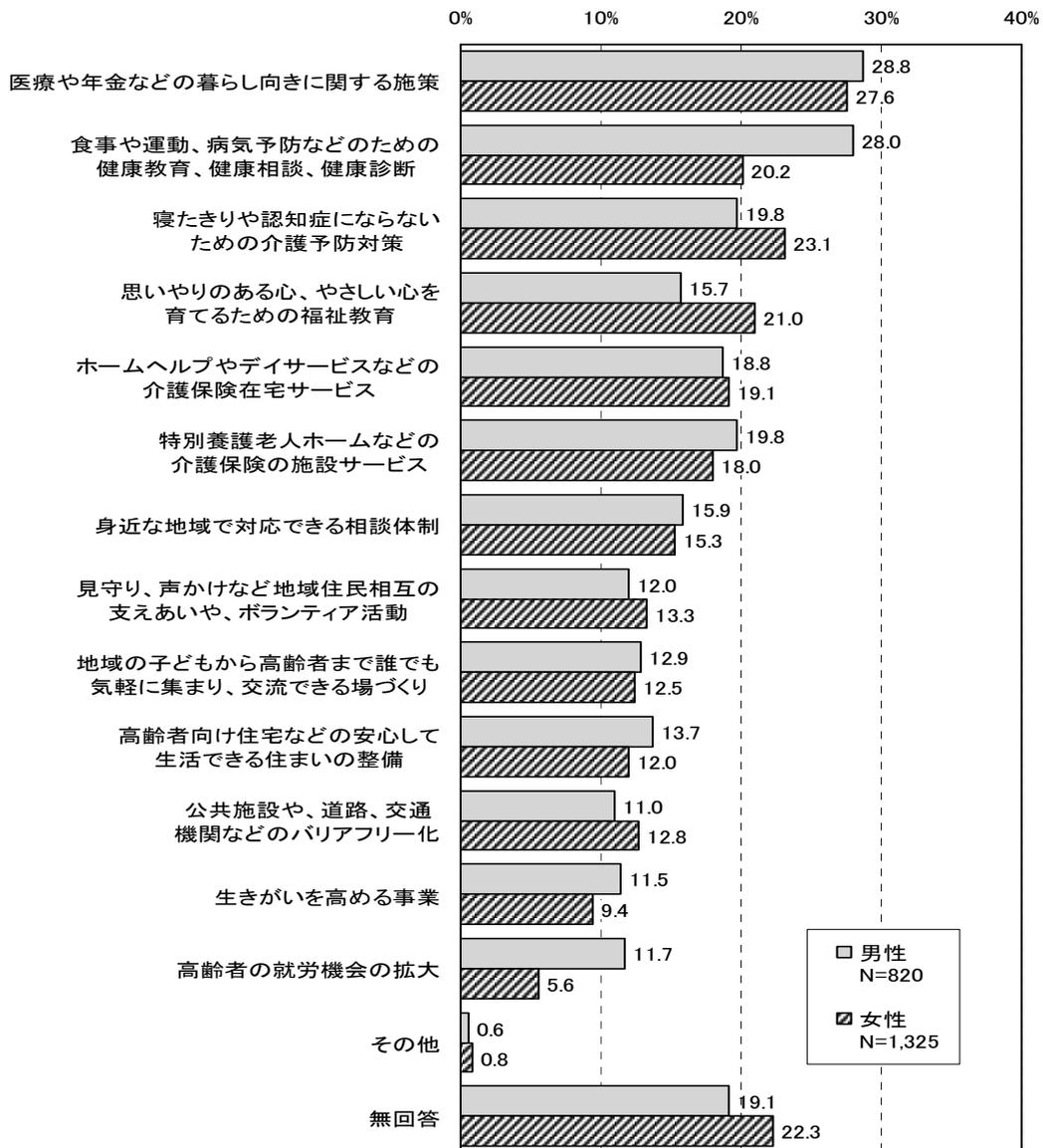
①今後、行政（国・県・市）に期待することやもっと充実させて欲しいと思うこと



行政に期待することとしては、「医療や年金などの暮らし向きに関する施策の充実」という回答割合が男女ともに高くなっています。

その他の項目については、回答割合にあまり大きな差が見られず、広く様々な施策の充実を求めている様子がうかがえます。

《参考：高齢者実態調査データ》



### Ⅲ. 調査結果から見えるもの（特徴的なもの）

#### 1. 世帯状況について

○団塊の世代では、将来、子どもと同居すると答えた方より、別居すると答えた方が多く、今後は核家族化がさらに進行し、高齢者単身世帯、高齢者夫婦のみ世帯が増加すると考えられます。

○男性の単身世帯は、高齢者より団塊世代の方の割合が高く、今後団塊世代が高齢化することにより、男性高齢者の単身世帯はさらに増加すると考えられます。

#### 2. 日常生活について

○ふだんの暮らしで生きがいをそれほど感じていない、または感じていない方が3割程度あり、これらの方は地域活動や社会貢献活動に参加していない割合が高く、活動への参加の程度が生きがいの感じ方に影響していると思われま

す。○近所づきあいの程度では、高齢者に比べ付き合いの程度は低く、近隣との関係が希薄化していると思われま

#### 3. 健康づくりや介護予防について

○病気の罹患率は男性で、高血圧、脂質異常症、糖尿病等の生活習慣病の割合が高く、特に男性高齢者の健康状態の悪化が懸念されます。

○健康づくりや介護予防のために新たに何かをしようと考えている方は男女ともに回答者の8割を超えており、自分の健康に対する関心や健康づくりの意欲は高いと考えられます。

○健康づくりのために知りたいことでは、女性の半数が認知症・心の健康をあげており、関心度が特に高いと考えられます。

#### 4. 地域活動・社会貢献・就業について

○何らかの地域活動や社会貢献活動を今後新たにやりたいと思っている方は6割を超えており、活動に取り組む意欲はある程度高いと思われま

す。○老人クラブへの参加状況は、高齢者と比較するとかなり低い状況ですが、今後の参加意向では、参加したいと思う方は高齢者より高いなど、老人クラブへの一定の関心はあると思われま

す。○何歳くらいまで仕事をしたいかに対する答えでは65～69歳、70～74歳、75歳～79歳くらいまでの合計が、6割近くになり、就労意欲は高いと思われま

#### 5. 住居について

○団塊世代の8割程度は一戸建てに居住していますが、住み替えるとした場合の住宅タイプは一戸建て以外の希望も3割程度あり、特に女性は高齢者向け賃貸住宅等への希望が多く、高齢期となった場合を想定し、より利便性や安心感の高い生活を望んでいる傾向が強いと思われま

## IV. 5期計画に向けた課題の整理

### 1. 単身高齢者・高齢者のみ世帯への支援体制の充実・強化

単身高齢者や高齢者のみ世帯は今後増加し、他の世帯に比べて援助を必要とする度合いが高く、特に単身高齢者は孤立化する傾向にあります。これらの世帯に対する地域における支援体制の充実・強化、特に、男性の単身高齢者の孤立化・閉じこもり防止への支援が課題となると思われます。

### 2. 健康づくり・介護予防の周知、推進

生活習慣病の割合が高く、よりきめ細やかな保健指導等、効果的な保険事業の実施により、健康づくり・健康管理に関する意識啓発を進め、健康の保持・増進に繋げることが課題です。また、介護予防、認知症予防に関する周知・啓発の機会を増やし、自主的な活動に繋げて行くことが課題です。

### 3. 生きがいづくり・社会参加の促進

地域活動に対する団塊の世代の理解を進め、意欲的な社会参加に繋げることで、生きがいづくりを推進するとともに地域の活性化に繋げていくことが課題です。また、団塊の世代の就業継続の希望は高く、就業人口が減少する中、これまでの経験や技術を活かした高齢者の就業促進が課題となると思われます。

### 4. ニーズに応じた住居の整備

団塊の世代の住居のニーズは多様化しており、ニーズに応じた住居タイプの整備や居住環境のバリアフリー化を進め、高齢期に安心して暮らせるまちづくりが課題と思われます。